



シンボル事業

令和8年度の主な事業を紹介いたします

当初予算

JR篠山口駅周辺の整備活性化 (1,944万円)

JR篠山口駅周辺の拠点形成に重点的に取り組むため、駅前の交通容量や交通動線を検討し、駅や駅前に必要な機能・施設の整備方針を明確化したうえで、駅前の整備イメージを描く「篠山口駅前整備基本構想」を示します。

あわせて、篠山口駅周辺が地域の交流拠点として一層魅力を高め、地域経済の活性化と市民の利便性向上につながることをめざします。

丹波の森構想 (14万円)

これまで、「丹波の森」の地域づくりを未来につなぐため、「丹波の森創造プラン」を用いて啓発を行ってきました。令和7年度には、丹波の森づくり推進検討委員会を設置し、丹波の森づくりに係る理念を、将来にわたって持続的に市民と共有していくため、条例制定の検討を始めました。引き続き、この理念の実現に向け条例制定などの取り組みを進めます。

「日本の美しい農村、未来へ」ビジョンを策定 (131万円)

丹波篠山国際博では、令和7年度の1年間を通じて、市がこれまで大切にしてきた農業、景観、伝統文化などを守りながら、さらに未来につなげるための取り組みを市民の皆さんとともに展開しました。これを契機とした集落・地域づくりのあり方を示す「日本の美しい農村、未来へ」ビジョンを策定し、その構想を広く周知します。



道の駅「こんだ温泉めぐもりの郷」整備 (2億2,859万円)

市民の皆さんを中心に温浴施設として親しまれ利用されている「こんだ薬師温泉めぐもりの郷」を道の駅として整備します。高台にある立地を生かしたデッキテラスの整備、地元特産品などの農産物販売所の改修拡大、地元特産品を使った料理を提供するレストランの改修、24時間利用可能なトイレ整備などを行い、令和8年度末のオープンをめざし、取り組みます。



(仮称)城東こども園新築整備 (4億521万円)

旧城東中学校跡地に建設する(仮称)城東こども園は、木造平屋建て、延べ床面積992.65㎡。保育室5室、遊戯室、調理室、職員室を設け、定員115人の規模で、令和9年4月の開園をめざして取り組みます。



主要事業(子育ていちばん)

給食費の無償化 (1億5,052万円)



物価高騰が続く中、学校給食の質・量を維持して提供し、子どもたちが健やかに成長できる環境を整えます。小学生については、学校給食費を無償化します。また、幼稚園・こども園園児および中学生の給食については、市が給食費の2分の1を負担し、保護者の経済的負担軽減を図ります。

子育て世代への育児支援 (5,296万円)

市外受診のための交通費や育児用品の購入費などの負担を軽減するための経済的支援を実施しています。今年度も引き続き国の交付金に上乗せを行い、妊娠時に10万円、出産後に10万円を給付します。さらに、出産祝い金として第3子以降を出産した方に20万円を支給し、子育て家庭の経済的負担の軽減につなげます。

そのほか、お産応援119(妊婦救急搬送事業)や、不妊治療費の助成事業(一般不妊治療、不育症治療支援)および低所得の妊婦に対する初回の産科受診料助成事業についても継続実施します。



教育長 丹後政俊

(令和8年度教育方針より)

学校園教育においては、変化の激しい予測困難な時代の中で子どもたちが主体的に人生を切り開き、多様な人々とつながり、協働して、よりよい解決を図って人生を生き抜いていく力の育成をめざします。また、近年増加する「不登校児童生徒」や「支援が必要な児童生徒」について、子どもや家庭とのつながりを大切に、社会的自立に向けた支援を行い、全ての子どもが行きたいと思える楽しい学校園をつくりたい。

学校園教育に加えて社会教育、芸術・文化・スポーツなど、あらゆる分野で心身ともに健康で社会的にも良好な多面的幸福が持続する状態「ウェルビーイング」の実現を目標とし、多様な分野のウェルビーイングが相互に循環して高め合う「助け合い・つながり合う」共生社会をつくり、「一人一人が光り輝き、幸せに生きる」教育の実現に取り組んでいきます。

丹波篠山市では季節を問わず観光客が増え、農都、美しい町並みと景観、自然や文化に恵まれたおしゃれなまちとして人気が高まっています。一方で、集落や地域では「子どもが少なく」「村の担い手が心配だ」「空き家が増えた」などの声が聞こえ、将来を心配されています。これらの課題解決に向け、各自治会では「ワクワク農村未来プラン」に取り組んできました。

令和8年度も引き続き、子育てと定住にさらに力を入れ、こども医療費の無償化や、給食費の無償化・負担軽減を進めるとともに、世代を問わず「住み続けたい」「住んでみたい」と思っていただけのように取り組みます。令和7年度の丹波篠山国際博では、町並み、農と食、お祭り、四季の自然や暮らしなど、市民みんなが丹波篠山市の魅力を見つけて誇りをもつ契機となりました。この国際博のテーマである日本の美しい農村が未来へつながるよう、さらなる取り組みを進めていきます。



市長 酒井隆明

特集
タウンレポート
HOTOとく
情報ピックアップ
市政リーダー
インフォメーション
おでかけ相談
はぐくみ
街かどレポート
栄光輝く
まちの話題

主要事業(農都・魅力向上)



ふるさとの森づくり 森のめぐみの回復 (1,319万円)

木をはじめとする森林資源を効果的に利用する仕組みをつくり、「森の恵みを大事にするまち」をめざします。森林戦略担当官が、所有者などからの相談に応じ、森林整備に関連する制度などについて情報提供を行います。また、小規模な森林を少人数で長期にわたって間伐をくり返す「自伐型林業」に取り組む林業者を支援します。今年度は、人工林3.6ha分の間伐を支援します。さらに、国の「美しい森林づくり基盤整備事業」の採択を受け、特定間伐計画に基づく人工林10haの間伐を進めます。

獣がい対策の推進 鳥獣被害対策 (6,541万円)

農地をしっかり守る「被害防除」において、これまで金網柵約460km、サル用電気柵約130kmを施工し、その効果を上げてきています。一方で、獣害防護柵のない農地で新たに被害が発生しています。これに対応するため、新たな被害地を対象に国の補助を活用し、施工と材料支給を行い、新たに40地区で獣害防護柵の設置に取り組みます。

小さな農家・集落営農と担い手人材育成 (5,643万円)

市内の大多数を占める小さな農家を守るとともに、将来的には集落営農組織に発展するよう3戸以上の共同申請に対して農業機械導入を支援する「集落農業守り隊応援事業」を引き続き実施します。このほか、集落営農組織、新規就農者、認定農業者についても、機械導入などを引き続き支援し、農業や農地、そして農村集落が未来にわたり維持、発展できるよう営農活動の負担軽減と経営の安定化を図ります。

農都のめぐみ米推進 (430万円)

令和2年度から、化学肥料と農薬の使用を兵庫県慣行基準の半以下に抑え、生きものにも配慮しながらつくられたお米を「農都のめぐみ米」として栽培普及を始めました。

今年度は、めぐみ米の付加価値向上とブランド化、生産拡大を図るため、認証団体を通じて生産者に対し、玄米30kg当たり300円の支援や、新たに認証取得される団体に上限5万円の支援をします。今後も、環境や生きものに配慮した農業を推進し、農都のめぐみ認証米の生産・販売拡大に取り組みます。



市内高校の活性化 (219万円)

篠山鳳鳴高等学校をモデルとし連携して、現役高校生が主体となって学校の良さを学び魅力を発信する「地域ライター部」の設立に向け支援します。また、ふるさと丹波篠山を愛し、将来ふるさと丹波篠山で暮らす機運を醸成するよう、地域住民や卒業生とつながり集う場を設けるなど、若者の地域定着のための環境づくりを進めます。



主要事業(子育ていちばん)

高校生までの医療費助成 (1億7,740万円)

0歳から中学3年生までの通院・入院とも完全無償化、高校生などの入院は無償化、通院は一部負担はあるものの、0歳から高校生または18歳まで、所得制限なしの医療費助成を引き続き行います。

産後ケア事業 (5,391万円)

産科医療機関などと連携し、こども家庭センターふたばによる妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援の充実を図ります。また、通所型ケアの利用回数の上限を7回に拡充し、産婦のニーズに合った産後ケアサービスが提供できるように努めます。

こども誰でも通園制度 (449万円)



こども誰でも通園制度は、6カ月から満3歳未満までの、保育所や認定こども園などに通っていないこどもを対象に、保護者の就労の有無にかかわらず、月10時間までの利用可能枠の中で、保育施設等に通園できる新たな制度です。全てのこどもの育ちを応援し、良質な成育環境を整備します。

主要事業(地域と暮らし)

二地域居住・ふるさと住民登録制度の推進 (55万円)

中長期的な視点で丹波篠山市に人を呼び込み、二地域居住を促進するなど、地域に関わる人(関係人口)を創出・拡大するため、歴史的つながりのある東京の青山通りや渋谷を舞台に、丹波篠山の暮らしを紹介するイベントを実施します。さらに、スマートフォンのアプリで関心のある自治体を手軽に登録できる「ふるさと住民登録制度」を活用して、関係人口が見える化し、地域の担い手確保と活性化につなげます。



中学校部活動地域展開 (3,084万円)

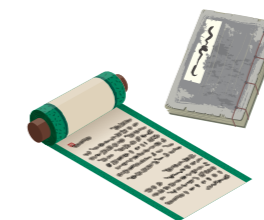
部活動指導員を活用した部活動の地域連携、地域クラブを活用した休日部活動の地域展開を行い、平日は学校、休日は地域といった役割分担のもと、スポーツ・文化芸術活動に取り組む環境を整備します。令和8年度は、既存4種目の地域展開に男子バレーボールを加え、その他の種目についても随時、拡充していく予定です。

地域公共交通運賃助成券 (316万円)

城下町やJR篠山口駅周辺など、公共交通が比較的便利な地域でも、高齢などの理由で歩行が困難で既存の公共交通を利用するのが難しい方の日常の移動を支えるため、対象地域の75歳以上や障がい者の方などに、タクシーで利用できる500円助成券を年間10枚配布します。

丹波篠山市史で初の刊行物発行 (4755万円)

令和2年度から着手した古文書や古写真などの歴史資料の収集・調査を実施し、地域資料として保存・活用を図り、丹波篠山市史「自然環境編」を刊行します。



川代体育館長寿命化および照明設備改修 (2億2,216万円)

今後も快適に施設を利用できる環境を整えるため、屋根や外壁等の長寿命化工事を行います。また、照明設備をLED器具に更新し、ゼロカーボンを推進します。

令和8年度 一般会計、特別会計、公営企業会計予算額

(単位：千円、%)

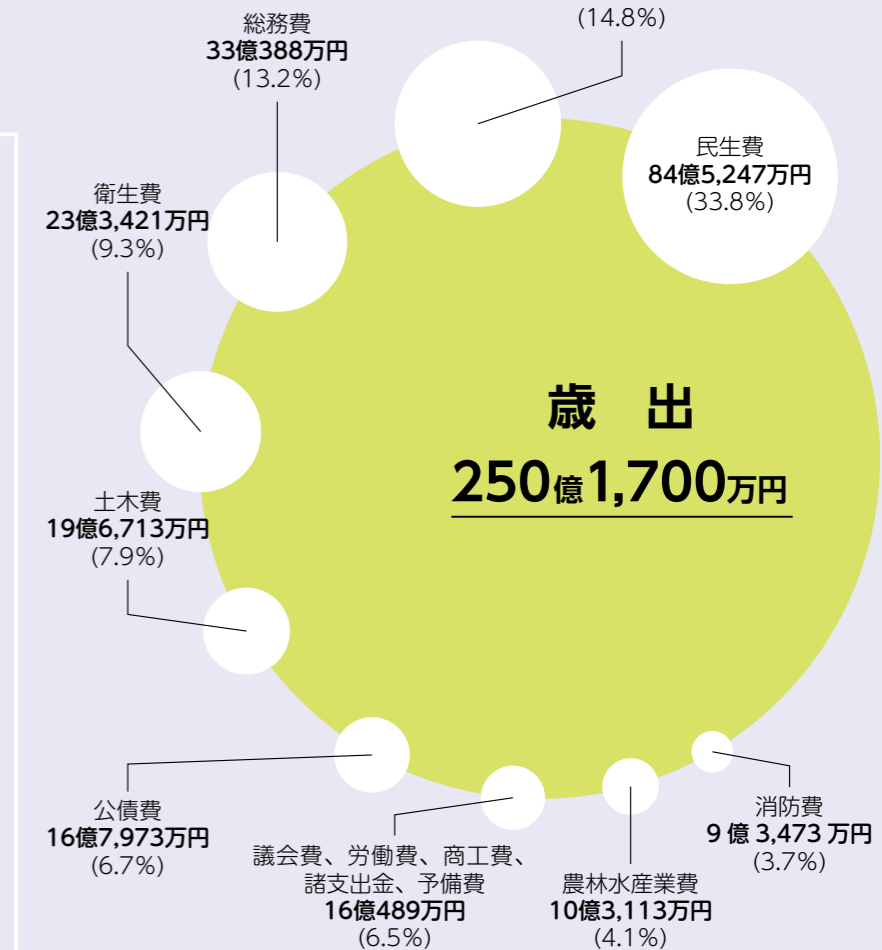
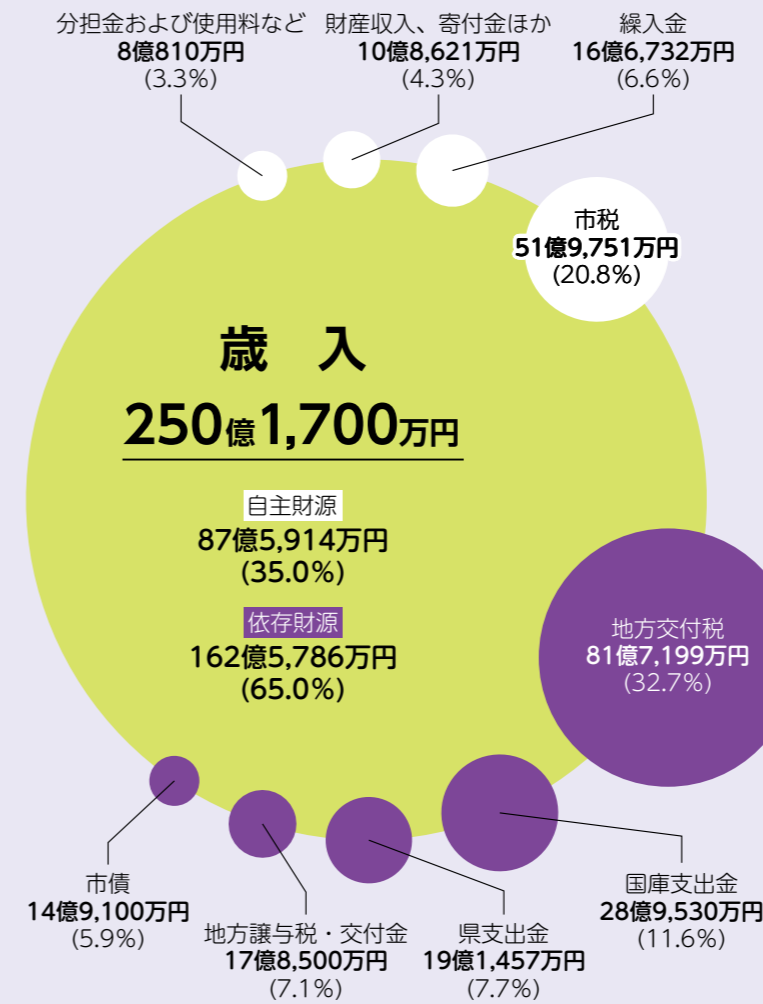
会計名	令和8年度当初予算額	令和7年度当初予算額	増減額	前年度対比
一般会計	25,017,000	25,424,000	△407,000	△1.6
国民健康保険特別会計	4,445,939	4,894,478	△448,539	△7.2
事業勘定	4,222,772	4,676,707	△453,935	△9.7
直営診療所勘定	223,167	217,771	5,396	2.5
後期高齢者医療特別会計	886,354	818,560	67,794	8.3
介護保険特別会計	5,238,788	5,222,248	16,540	9.6
介護保険事業勘定	5,217,250	5,202,551	14,699	0.3
介護サービス事業勘定	21,538	19,697	1,841	9.3
特別会計	10,571,081	10,935,286	△364,205	△3.3
水道事業会計	3,213,659	3,179,530	34,129	1.1
下水道事業会計	4,928,667	5,053,932	△125,265	△2.5
公営企業会計	8,142,326	8,233,462	△91,136	△1.1
合計	43,730,407	44,592,748	△862,341	△1.9

予算の概要をお知らせします

令和8年度の一般会計の予算規模は250億1,700万円で、西紀防災行政無線デジタル化工事の完了や丹波篠山国際博覧会関連事業の終了などにより、前年度と比較すると4億700万円(1.6%)の減額となりました。

令和8年度当初予算はこども医療費や給食費の無償化・負担軽減、(仮称)城東こども園新築整備事業など、子育てと定住に重点を置いた予算となりました。

問い合わせ 財政課 ☎552-5114



用語の解説

【歳入】

- 市税：市民の皆さんから納めていただくお金
- 繰入金：会計間や基金(貯金)などから、資金を受け入れるときのお金
- 地方交付税：地方自治体が一定水準の行政サービスを提供できるよう、国から交付されるお金
- 国庫・県支出金：市が行う仕事に対し、国や県から支給されるお金
- 地方譲与税：国の税金から、一定の基準で配分されるお金

【歳出】

- 民生費：福祉の増進に使うお金
- 総務費：行政全般の事務に使うお金
- 衛生費：市民の皆さんの健康づくりや、ごみ処理などに使うお金
- 公債費：市の借金を返済するお金

財政指標で見る丹波篠山市の姿

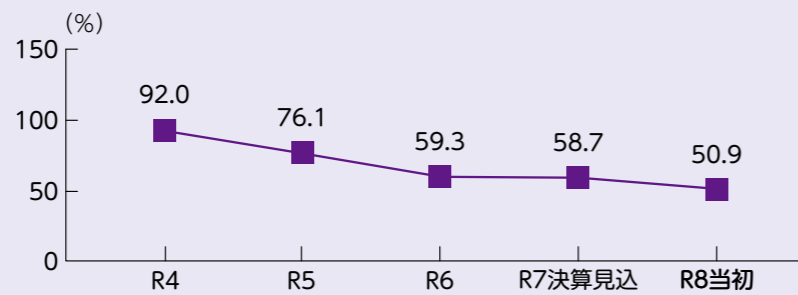
実質公債費比率

市の借入金の返済額の大きさを、市の財政規模に対する割合(3カ年平均)で表したものです。25%を超えると早期の健全化を求められます。



将来負担比率

市の財政規模に対する、将来支払う可能性がある負債の比率です。350%以上で早期の健全化を求められます。



市債残高(全会計)

市債とは、建設事業を行うため、国や金融機関から借入れ、今後負担する必要があるお金のことです。

